

ブーリン家の姉妹

姉妹間の愛と嫉妬という濃い情念から、
歴史という人間劇場の凄みと深さを見る。

文・中野香織

なかの・かおり 服飾史家、コラムニスト

10月25日(土)より、東京・シャンテシネほか全国TOHOシネマズ系にてロードショー。配給:ブロードメディア・スタジオ
©2008 Columbia Pictures Industries, Inc and Universal City Studios Productions LLLPand GH Three LLC. All Rights Reserved.

●『エリザベス』のプロデューサー、『クイーン』の脚本家らが結集し、英国王室スキャンダル秘話を新たな視点で映画化。身勝手王ヘンリー8世をエリック・バナ、王妃アン・ブーリンをナタリー・ポートマン、その妹メアリーをスカーレット・ヨハンソンが演じる。姉妹が着こなすチューダー朝衣裳のディテールも見もの。115分。

ヘンリー8世の6人の妻をめぐる16世紀のお話、とりわけ2番目の妻アン・ブーリンの巻は、英国の文化遺産産業における「目玉」のひとつである。「愛人はノー、王妃ならイエス」と強気で挑んだアンは、ヘンリーを最初の王妃と離婚させて王妃の座に就くが、約1000日後、処刑される。男子後継者がほしいマッチョと小悪魔の、男

と女の駆け引きの果てでもある短命の結婚が、歴史を変える。ヘンリーは離婚成立のためカトリックと決別したし、何よりも、アンの処刑で庶子とされた2人の娘が、後に「処女女王」エリザベス1世となってゴールデンエイジを築くのだ。王のベッドはパブリック。歴史は人間の思惑通りにはならないが、人間くさい情念が動き出す、という

皮肉が胸を打つ、壮絶な「物語」である。この文化遺産を、ハリウッド流の華麗なる「ボデイス・リップパー」(エロい歴史ロマンス)に変貌させたのが、『ブーリン家の姉妹』である。姉妹役もヘンリー役も英国人ではなく、映画は「王の寵愛をめぐる姉妹の愛憎と運命」というメロドラマとして描かれる。原題は「もう一人のブーリン家の娘(The Other Boleyn Girl)」。歴史に埋もれていたアンの妹メアリーの登場で、アンがなぜあれほど「愛人ではなく、王妃」にこだわったのが明らかになる。先に王の愛人となった妹が、子供とともに捨てられたのだ(しかも捨てさせたのはアン)。姉妹間の愛と嫉妬という濃い情念が、歴史を動かした男女の情念の陰にからみついていて……と知ること、不可解な人間劇場としての歴史が、妻と深さを増して見える。

史実を知らなくても、楽しめる。王をじらしたあげく結ばれるときの「勝った」アンの苦悶の表情と、王を心から愛した「敗者」メアリーの満ち足りた表情の対比は、ボディプロウのように、あとあとまでじんわりと効く。



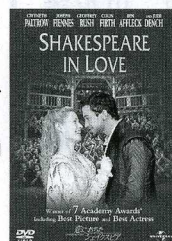
撮影・西村博之

DVD 2,100円
発売元・ワーナー・ホームビデオ



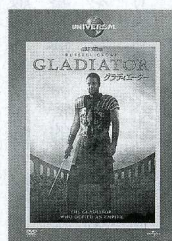
『危険な関係』
ラクロワの原作とともに、人間の心のあやうい深淵を知るためのバイブル。コレットで締め上げ、パニエで拡張させるという、自然からかけ離れた衣装で人為的陰謀をめぐらす貴族が、自然な感情にぐずれ落ちる瞬間が胸を突く。

DVD 1,800円
発売元・ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン



『恋におちたシェイクスピア』
若き劇作家シェイクスピアと貴族の娘の恋愛コメディだが、当時の社会状況やシェイクスピアの作品劇中劇「ロミオとジュリエット」などが、虚実リズムカルに入り混じり、ジェットコースター級の知的恍惚が味わえる。

DVD 2,079円
発売元・ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン



『グラディエーター』
陰謀ですべてを失い、復讐を誓って奴隷剣闘士に身をやつす将軍、ラッセク・クローウの男っぷりが凄い。コロシムムの戦闘シーンは何度見ても鳥肌が立つ。精一杯生きて散る人間の一生のはかない重みを、切なくしりと感じさせる。

中野香織さんが薦める、
ぜひ見てほしい
そのほかの映画。

最近、感動した映画見ましたか